

2022年1月23日  
礼拝

祈り

聖書

ローマ人への手紙4章17～25節

4:17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。

4:18 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる。」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。

4:19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが生かされても死んでも同然であることと、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。

4:20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、  
反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、  
4:21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じ  
ました。  
4:22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。

4:23 しかし、「彼の義とみなされた。」と書いてあるのは、ただ彼のためだけでなく、

4:24 また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰を義とみなされるのです。

4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

説教  
望み得ない時に

元旦礼拝から先週の礼拝に至るまで数回  
信仰による救いから  
神との平和、神からの平安  
神の栄光のために生きる  
艱難さえも喜ぶ  
艱難は忍耐  
忍耐は練られた品性  
練られた品性は希望  
この希望は失望に終わることがない



このような展開をして  
「この希望は失望に終わることがない」  
今年のみことばを味わって来ました。

## ローマ書1章16～17節

「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

1:17 なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。義人は信仰によって生きる。と書いてあるとおりです。」

これはローマ書の主題であります。

## さらに3章21～24節

「 3:22 すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。

3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

3:24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、  
価なしに義と認められるのです。」  
これはローマ書の本論であります。

前回はこの信じるだけで義とされる信仰は  
失望に終わることがない希望へと  
展開して行く話をしました。

今日は  
私たちが信仰によって義とする神は  
死者を生かす神  
無いものを有るものとして召される神  
望み得ない時に望みを与える神

この神をさらに深く知る時としたいと思います。

信仰の歩みの目標、  
また礼拝の目的は神様を知ることです。  
私たちが信仰によって救い義としてくださった神は  
死者を生かす神であります。  
無から有を生じさせる神であります。  
無能力な者を生かして用い  
罪の中に死んでいた者を生かしてくださる神  
信仰的に体験的に知って行きたいと思います。

## 4章19節

「アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが生きたまま死んだと同然であることと、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。

4:20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、  
反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、

4:21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じ  
ました。

4:22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。

アブラハム100歳、サラさん90歳。

サラさんの胎はすでに死んでいます。

しかしイシュマエルではなく、サラから約束の子が生まれると堅く信じていました。

その約束通り、90歳のサラさんから約束の子イサクが生まれました。



創世記15章では  
アブラハムは主を信じた。

それが彼の義と見なされたと書かれています。  
義とされる信仰を持って、何年経っても約束の子は生まれません。86歳の時まで、75歳から10年ほどでしょうか、アブラハムは子供が与えられる様に祈りました。

しかし祈っても祈っても子供は与えられません。  
しかし16章でアブラハム86歳の時、約束を待ちきれなくなってハガルの所に入ってイシュマエルを産み、それがアブラハム家の深刻な問題となりました。

この時から13年、アブラハムの悔い改めの日々、  
信仰が深まり神を深く知るように成長して行きました。

アブラハム99歳の時、  
17章ではアブラハムは神を全能の神と信じました。

そして無から有を生み出す神、  
死者を生かす神を信じるようになりました。  
アブラハム100歳の時、死んだようなサラの胎から  
イサクが生まれました。

この時から2000年ほど経ったとき  
ヨルダン川のほとりで  
バプテスマのヨハネが叫んでいます。

## マタイ3章8～9節

「3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。  
3:9 『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で言うような  
考えではいけません。あなたがたに言うが、神は、この  
石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことがおできになる  
のです。

あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、  
アブラハムの子孫を起こすことができになるのです。

その時のユダヤ人たちはアブラハムの子孫という血統証明書のようなことを誇っていました。神様の前に大切なのは血統証明書では有りません。死んだようなサラの胎からアブラハムの子イサクが生まれました。アブラハムは90歳になったサラの胎が石の様に冷たく堅くなって出産の可能性がないことを知っても、神には不可能はない、全能の神を信じているアブラハムに子供をお与えになりました。

パウロはだれがアブラハムの子孫か、  
だれが本当のイスラエル人か、  
血肉によるのではなく

信仰による人々こそアブラハムの子孫、アブラハムの祝福  
を受け、約束の相続人となります。

日本語では子宝に恵まれない方を昔はうまずめ、  
石女と書いていましたが、全能の神には死んでいる様な  
器官からでも命ある子孫を起こすことが出来る  
という信仰がここでは問われています。

パウロは  
サラの胎が死んでいることを認めても  
その信仰は弱りませんでした。  
とローマ4章19節で記しています。

ローマ4章17節では  
彼は、死者を生かし、無いものを有るものとして  
召される神を信じ、その御前で父となったのです。  
と書かれています。

罪の中で死んでいた者を霊的に生き返らせ、  
神と交わる神の子とされる主をアブラハムは信じていました。



生物学的に死んでいる者

霊的、道徳的に死んでいる者

社会的に死んでいる者

過去に大きな問題を起こして社会的に抹殺された者

機能的に死んでいる臓器

神は生かして用いてくださるという信仰

その信仰に生きた人がアブラハム

私たちはアブラハムを信仰の父と仰ぐべきであります

放蕩息子の箇所では父は兄に向かって「おまえの弟は死んでいたのが生き返り」と語っています。

罪の中に死んでいた。肉体的には生きていても、生ける屍のようになって帰って来た。

神から離れて、神に背を向けて背いて生きている罪の中の人、肉体的には生きていても、霊的には死んでいます。

イエス様は死んでいる人を生き返らせて、いのちを得て主の道を歩める様にしてくださいます。

ザアカイは失われて人がイエス様によって見いだされました。  
マタイは取税人となって道徳的に死んだようになっていまし  
たが  
イエス様によって死の床、取税所にへたり込んでいたところ  
を生きかされて立ち上がりイエス様の弟子になりました。

イエス様は罪の中に死んでいた者  
希望を失って絶望の中にいる者を生かして  
用いてくださるお方であります。

今の社会で希望を失っておられる方が多くおられます。  
受験のシーズン、どこかの学校に合格出来ないということはその学校で生きることが出来ない、死を宣告されたようなものです。ある企業でクビになる、雇ってもらえないと言うことも、そこで生きることが許されない、死を宣告される様な厳しい希望が失われることです。

ここでこの死を経験したもの、死を宣告されて絶望しているものを生かしてくださるのがイエス様の復活のいのちであります。

十字架にかかられたイエス様を  
死者の中からよみがえらされた主なる神様を  
信じる信仰で問題あるこの世の中で  
希望を持って生きましょう。  
この世の望みが絶える時があっても  
神様にある希望によって力、いのちをいただいて  
生きて生きましょう。

捨てられたものを生かしてくださる神様  
失敗しても倒れても  
起き上がらせてくださる神様  
復活させてくださる神様を信じましょう  
自分の力に絶望してしまったとき  
主を見上げて復活の力を注いでいただきましょう。

祈り